

January 15, 2021

【前日の為替概況】ドル円、パウエルFRB議長のハト派発言で103.57円まで弱含み

14日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小反落。終値は103.80円と前営業日NY終値(103.89円)と比べて9銭程度のドル安水準だった。バイデン次期大統領の経済対策発表やパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の討論会を控えて、しばらくは104.00円を挟んだ狭いレンジ取引が続いた。ただ、前週分の米新規失業保険申請件数が96.5万件と予想の78.0万件より弱い内容となったことが分ると、対資源国通貨中心にドル売りが強まった。パウエルFRB議長の「利上げのタイミングは全然近くない」とのハト派的な発言が伝わると、一時103.57円と日通し安値を付けた。

ただ、前日の安値103.53円が目先サポートとして働くと下げ渋った。米10年債利回りが1.13%台まで上昇したことも相場の下支え要因となり、103.83円付近まで下げ幅を縮める場面があった。なお、市場では「103.50円にかけては断続的に買いオーダーが観測されている」との声も聞かれた。

パウエルFRB議長はプリンストン大学でのオンラインインタビューで、「経済状況は依然として目標からかけ離れている」「目標が十分に達成されるまで、大規模な緩和スタンスを変更する理由はない」「利上げや量的緩和の縮小については当面ない」と強調。資産購入の変更については「検討するよりも前にわかりやすく知らせる」と述べたうえ、市場が混乱に見舞われた2013年の「テーパータントラム」にも触れ、「非常に慎重に対話していく必要がある」と表明した。

ユーロドルはほぼ横ばい。終値は1.2155ドルと前営業日NY終値(1.2157ドル)と比べて0.0002ドル程度のユーロ安水準だった。欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨や伊政局不安を材料にユーロ売りが先行し、22時30分前に一時1.2111ドルと日通し安値を付けた。ただ、低調な米労働指標やパウエルFRB議長のハト派的な発言を受けて、全般ドル売りが加速すると一時1.2178ドルの本日高値まで上昇した。

ユーロ円は5日続落。終値は126.17円と前営業日NY終値(126.30円)と比べて13銭程度のユーロ安水準。欧州時間に一時126.53円と日通し高値を付けたものの、ECB理事会議事要旨や伊政局不安を材料にユーロ売りが強まると、125.93円と日通し安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】9時15分からのバイデン次期大統領の追加経済対策に要注目か

本日の東京外国為替市場のドル円は、9時15分(米国東部時間19時15分)から発表される予定のバイデン次期米大統領による追加経済対策に注目する展開となる。

バイデン次期米大統領は、12月の米雇用統計を受けて一段の新型コロナウイルス対策が必要なことが示されたとして、数兆ドル規模の追加経済対策を発表する、と報じられている。内容は、1人2000ドルの現金給付、失業給付の特例支給の延長、ワクチンの供給拡大を含む州・地方政府への支援、ワクチン普及対策費などが盛り込まれることが予想されている。

バイデン次期米大統領は、追加経済対策は高額と示唆していたが、昨日一部米メディアは2兆ドル規模と報じていたものの、本日は、総額1.9兆ドル、州支援に3500億ドル、ワクチン・検査に1600億ドル、と報じられている。

バイデン次期米大統領による正式な発表を待つことになるが、追加経済対策が1.9兆ドルに続いて増額される見込みならば、米10年債利回りの上昇を背景に、ドル円は上昇基調を継続することが予想される。

昨日、パウエル第16代FRB議長は、「経済状況は依然として目標からかけ離れている。目標が十分に達成されるまで、大規模な緩和スタンスを変更する理由はない。利上げや量的緩和の縮小については当面ない」と述べた。第15代FRB議長だったイエレン次期米財務長官の持論でもある「高圧経済政策」との財政・金融政策での協調となれば、大量発行が懸念される米国債をFRBが購入し続けて、調達金利上昇を抑える可能性もある。

ドル円のオーダー状況は、上値には、一目・雲の下限104.32円の上の104.40-50円に断続的にドル売りオーダー、超えるとストップロス買いが控えている。下値には、一目・転換線の103.50円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 13:30 ◇ 11月第三次産業活動指数（予想：前月比0.3%）

<海外>

- 09:15 ☆ バイデン次期米大統領、経済対策について発言
- 未定 ◎ 韓國中銀、政策金利発表（予想：0.50%で据え置き）
- 16:00 ☆ 11月英国内総生産（GDP、予想：前月比▲5.7%）
- 16:00 ◎ 11月英鉱工業生産指数（予想：前月比0.5%／前年比▲4.2%）
 - ◎ 製造業生産高（予想：前月比1.0%）
- 16:00 ◇ 11月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：101.75億ポンドの赤字／17.00億ポンドの赤字）
- 16:45 ◇ 12月仏消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比0.2%／前年比横ばい）
- 16:45 ◇ 11月仏財政収支
- 17:00 ◎ ビスコ伊中銀総裁、講演
- 17:30 ◎ 12月スウェーデンCPI（予想：前月比0.6%／前年比0.4%）
 - コア指数（予想：前月比0.6%／前年比0.2%）
- 19:00 ◇ 11月ユーロ圏貿易収支（予想：季節調整前260億ユーロの黒字／季節調整済220億ユーロの黒字）
- 21:00 ◎ 11月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比4.9%）
- 22:30 ☆ 12月米小売売上高（予想：前月比横ばい／自動車を除く前月比▲0.1%）
- 22:30 ◎ 12月米卸売物価指数（PPI、予想：前月比0.4%／前年比0.8%）
 - ◎ 食品とエネルギーを除くコア指数（予想：前月比0.2%／前年比1.3%）
- 22:30 ◎ 1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：6.0）
- 23:15 ◎ 12月米鉱工業生産指数（予想：前月比0.5%）
 - ◇ 設備稼働率（予想：73.6%）
- 24:00 ◎ 1月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：80.0）
- 24:00 ◇ 11月米企業在庫（予想：前月比0.5%）
- 16日 01:30 ◎ カシユカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

14日 08:10 ローゼングレン米ボストン連銀総裁
「今後のFRB緊急融資プログラムの必要性、新型コロナ流行とワクチン接種の状況次第」
「緊急融資プログラムの内容を巡りバイデン次期政権と定期的に協議してきた」

14日 08:18 トランプ米大統領
「先週の連邦議会議事堂で起きた惨事はショックであり、悲しいことだ」
「先週のような暴力を断じて非難する」

14日 09:25 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁
「テーパリングについて議論する前にインフレ率が2%を超えることを求める」

14日 10:02 黒田東彦日銀総裁
「新型コロナの影響を注視し、必要なら躊躇なく追加的な金融緩和措置をとる」
「コロナ対応、企業などの資金繰り支援と金融市場の安定維持に努める」
「国内景気は厳しい状態にあるが持ち直している」
「コアCPIの先行き、当面はマイナスで推移するとみられる」

14日 10:34 西村・経済再生担当相
「緊急事態の対象地域、感染状況によっては追加もあり得る」

14日 12:42 中国税関報道官
「20年の米国産農産品輸入、人民元建てで66.9%増」
「20年の米国産大豆輸入、人民元建てで56.3%増」
「国内経済の安定した回復、貿易の伸びの基盤に」

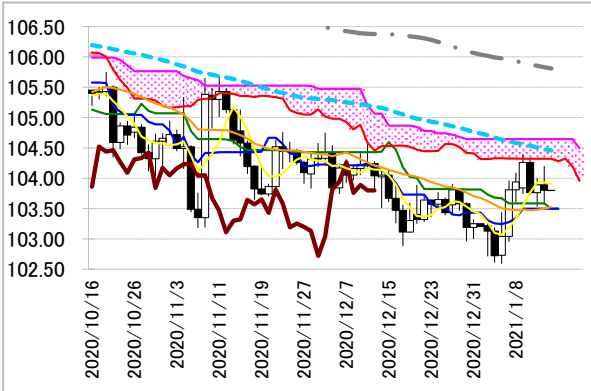
14日 13:50 クラフト米国連大使
「米国は台湾の友人・パートナーとして支援し続けることを蔡英文・総統に伝えた」

14日 21:35 欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨(12月10日分)
「不確実性は依然として高く、ポジティブなセンチメントが急速に低下する可能性があることに注意が必要」
「為替レートの上昇リスクについて、インフレ見通しに悪影響を及ぼす可能性があるという懸念を表明」
「PEPPは現状、利下げよりも効果的」

15日 02:44 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「2%のインフレを達成するには、平均2%のインフレを確認する必要」
「2%に固定された状態でインフレ期待が欲しい」
「新しい枠組みが信頼されるためには、しばらくの間、インフレ率が2%を超えるのを確認する必要」
「厄介なインフレや不均衡がない限り、利上げしない」
「パンデミックが後退するにつれて、短期的には物価上昇圧力がかかる可能性もある」
「一時的な物価上昇は持続的なインフレを意味するものではない」
「最大雇用にはほど遠い」
「世界的に需要が不足している」
「歓迎されないインフレについて、FRBは対応手段があり、それらを使用する」
「利上げ時期は全く近くない」
「債務負担、歴史的に見れば高水準ではない」
「良いタイミングで金融システムを強化する必要」
「堅調な労働市場に戻ることに最も焦点を当てている」
「米国にはヘリコプターマネーは必要ない」
「米連邦債務は持続可能な道を進んでいない」
「今は出口戦略について話す時期ではない」
「テーパリングの具体的な日程について議論が適切になった場合、世界に知らせる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

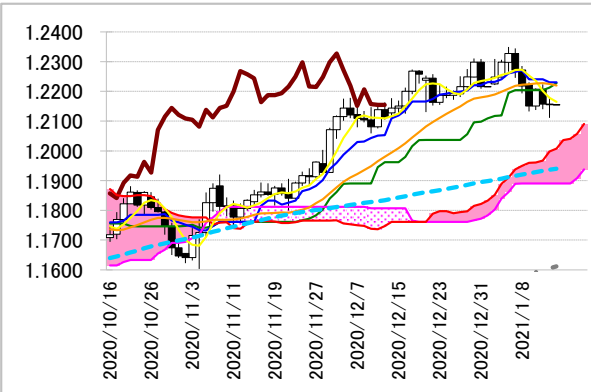


<ドル円＝転換線・基準線を支持に押し目買いスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線と同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。4手連続陽線で雲を上抜けることが出来ず、抱き線で反落したものの、転換線と基準線を上回っていることで、反発が示唆されている。

本日は、転換線＝基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	104.32(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	103.80
サポート1	103.50(日足一目均衡表・転換線＝基準線)
サポート2	102.59(1/6安値)

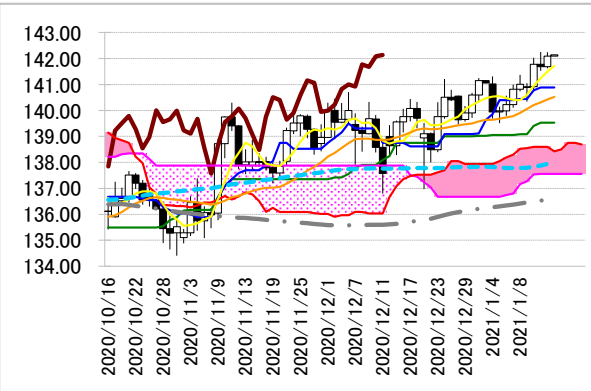


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。転換線の下、2手連続陰線で下落しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.2230(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.2155
サポート1	1.2059(2020/12/9安値)

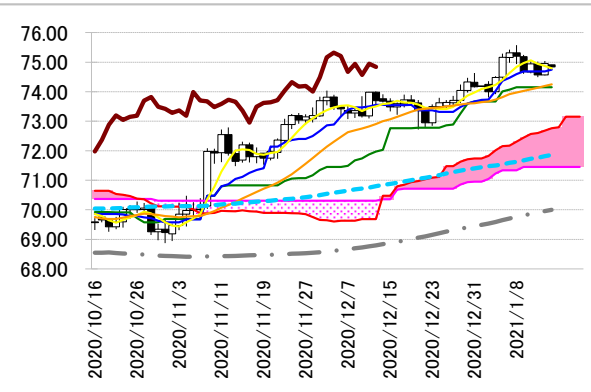


<ポンド円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。高値圏での陽線、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	143.12(1/4-5の下落幅の上方倍返し)
前日終値	142.09
サポート1	140.89(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。抱き線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	75.58(1/8高値)
前日終値	74.95
サポート1	74.15(日足一目均衡表・基準線)

